

だん こし

壇の越遺跡

現地説明会資料



竪穴住居跡の調査風景(47区SI4543住居跡、古墳時代)

2005年10月30日(日) 10時30分より

加美町教育委員会
宮城県教育委員会

1. はじめに

壇の越遺跡は、古代の陸奥国府・多賀城跡から北西約35kmの加美町鳥嶋・鳥屋ヶ崎にあります。遺跡のすぐ北側、比高差約20mの台地には、古代の賀美郡衙跡（賀美郡の役所跡）と推定される東山官衙遺跡があります。周囲に築地塀を巡らしたこの遺跡では、役人が政治を行った政庁や、整然とした配置の倉庫群が見つかり、律令国家が政治・軍事の拠点として造営した城柵・官衙遺跡の1つとして国の史跡に指定されています。

この東山官衙遺跡の南前面に広がるのが壇の越遺跡です。加美町教育委員会と宮城県教育委員会による近年の調査で、その範囲が東西2km、南北1.5kmに及ぶ広大なものであることや、遺構・遺物の内容が奈良・平安時代を中心とするものであり、東山官衙遺跡と密接な関連をもつ遺跡であることがわかってきました。

また、特筆すべきものとして、本遺跡では約110m（1町）間隔で南北・東西の直線道路が見つかり、広大な土地を碁盤目状に区画していたことがわかってきています。こうした地割は平城京や平安京といった都や、多賀城、大宰府など地方の主要都市にみられるものです。大多数の国府やそれ以外の官衙には、これまで見つかる例がないことから、壇の越遺跡は全国的にも貴重な遺跡といえます。

2. 調査成果の概要

平成17年度の調査は、県営ほ場整備事業と県道改良工事に伴い遺跡が壊されてしまう約10,000㎡を対象に記録保存を目的として、本町教育委員会が宮城県教育委員会から協力をいただき、4月18日より実施しています。今年度の調査成果をまとめると次のようになります。

《奈良・平安時代》

1. 東山官衙遺跡の南門跡へ向かってまっすぐ延びる南北大路跡から東側について調査を実施し、本調査では初めて東2・3南北道路跡が見つかったほか、これまで見つかった南北・東西道路跡の北・東側の延びを確認しました。これにより、南北大路跡の東側にも道路が、広い範囲に造られていたことがわかりました。
2. 道路跡は、道幅が4～8mあり、両側の溝は1・2回ほど改修されています。今回見つかった道路跡の多くは路面や側溝に10世紀前半頃に降った火山灰が堆積していました。
3. 道路跡で仕切られた区画の内部からは、掘立柱建物跡、竪穴住居跡、井戸跡、溝、土壇などが見つかりました。内部を溝でさらに細かく分割して利用していたとみられる区画もあります。
4. 遺物は、奈良時代から平安時代初めころ（8～9世紀）の、土師器や須恵器が出土しています。他には本遺跡で初めて出土した木簡（49区）や3例目となる漆紙文書があり、注目されます。

《その他の時代》

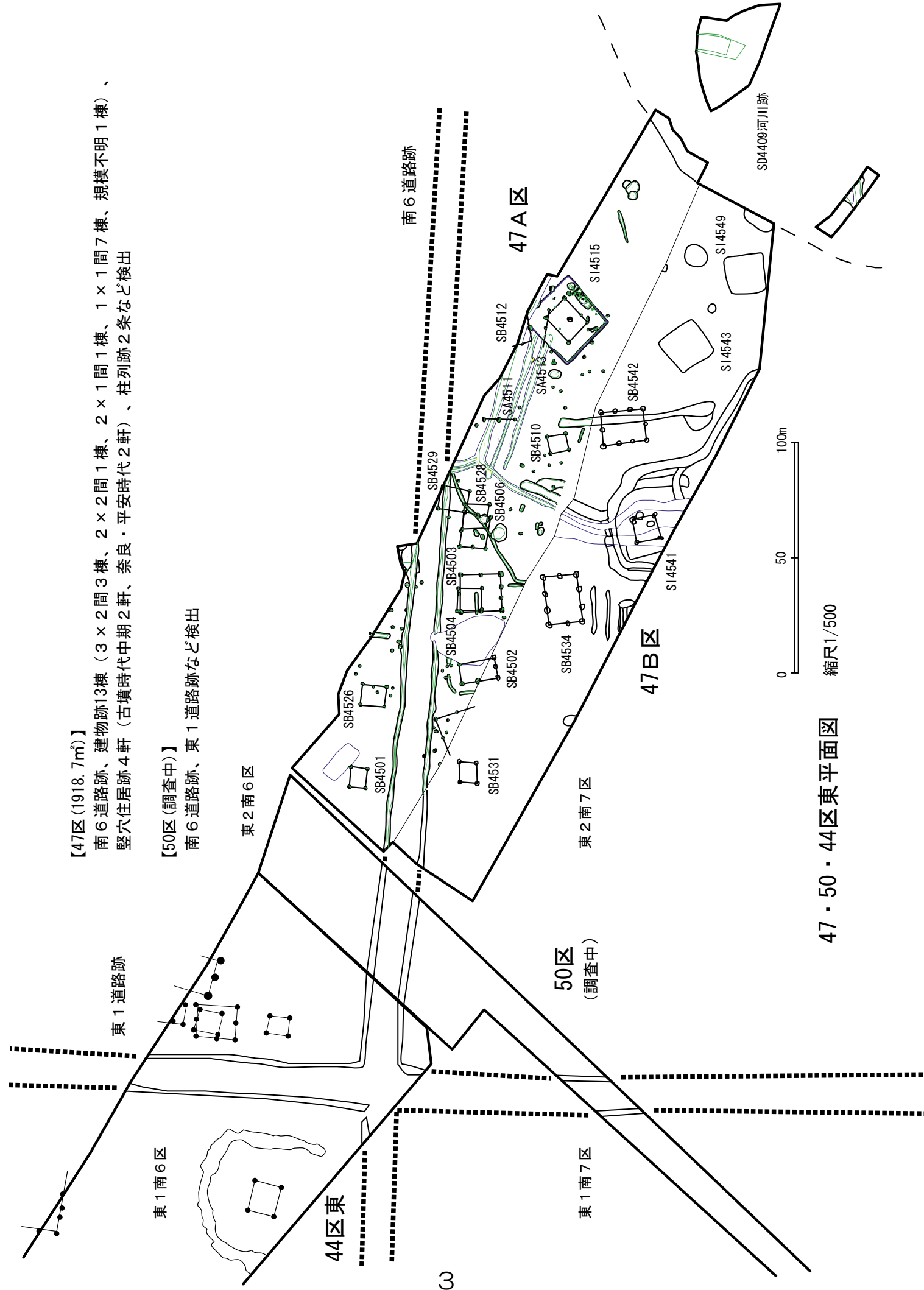
1. 45A区から、縄文時代とみられる石器が大量に出土しました。出土した石器のほとんどは、石を割って製品を作った際にでた破片で、この場所で石器を作っていたと考えられます。
2. 47区から、古墳時代中期（南小泉式）とみられる竪穴住居跡が2軒見つかりました。住居跡の規模は一辺が約4m・約6mで、どちらも床の上から土器が多く出土しています。

【47区 (1918.7㎡)】

南6道路跡、建物跡13棟 (3×2間3棟、2×2間1棟、2×1間1棟、1×1間7棟、規模不明1棟)、
竪穴住居跡4軒 (古墳時代中期2軒、奈良・平安時代2軒)、柱列跡2条など検出

【50区 (調査中)】

南6道路跡、東1道路跡など検出



47・50・44区東平面図 縮尺1/500

【45A区 (1211.9㎡)】

南6道路跡、区画溝6条、建物跡9棟 (2×2間かそれ以上4棟、1×1間5棟)、
柱列跡1条、竪穴住居跡1軒、井戸跡1基

【45B区 (152.6㎡)】

東3道路跡、柱列跡2条、
建物跡1棟 (規模不明)

【45C区 (161.1㎡)】

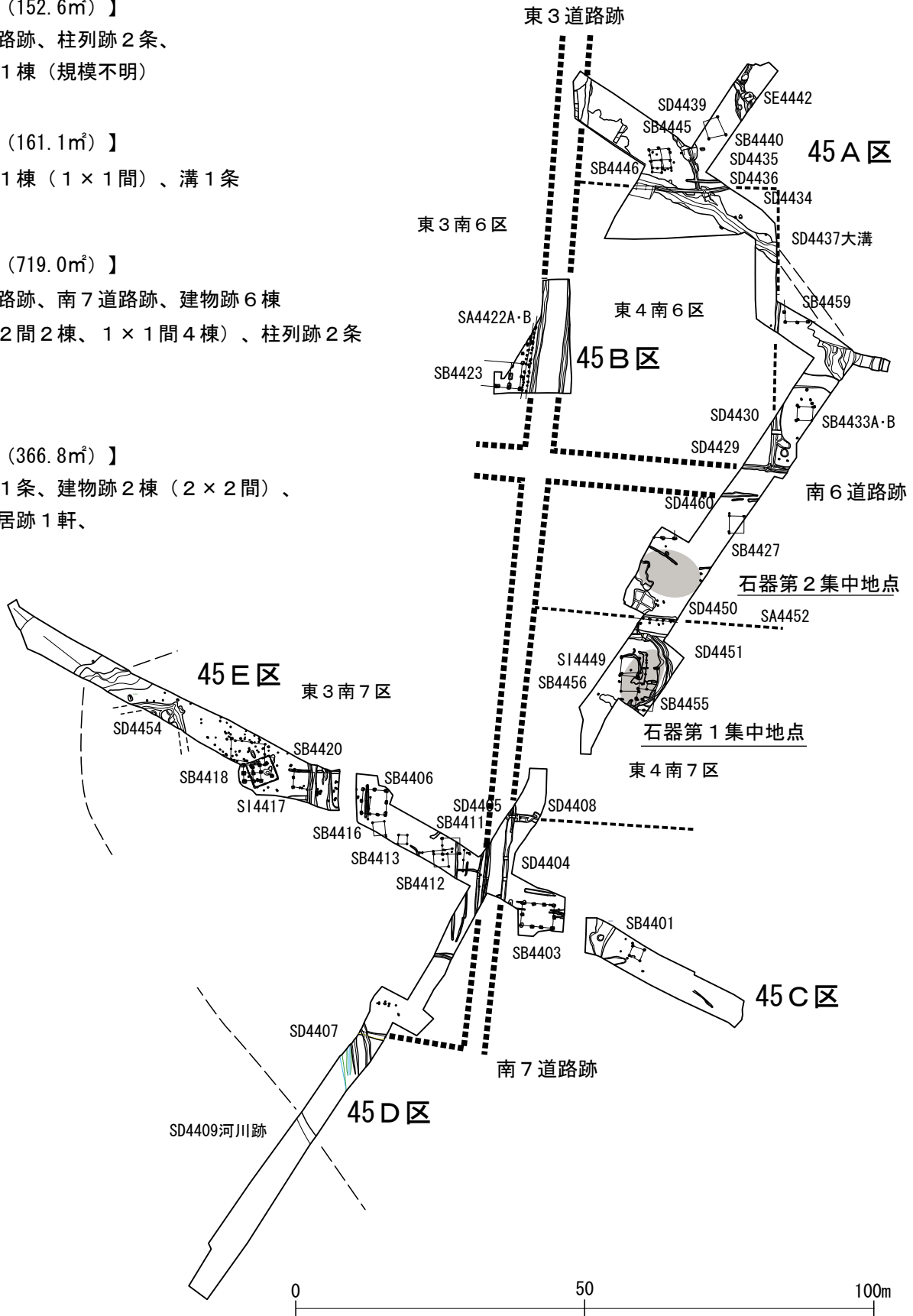
建物跡1棟 (1×1間)、溝1条

【45D区 (719.0㎡)】

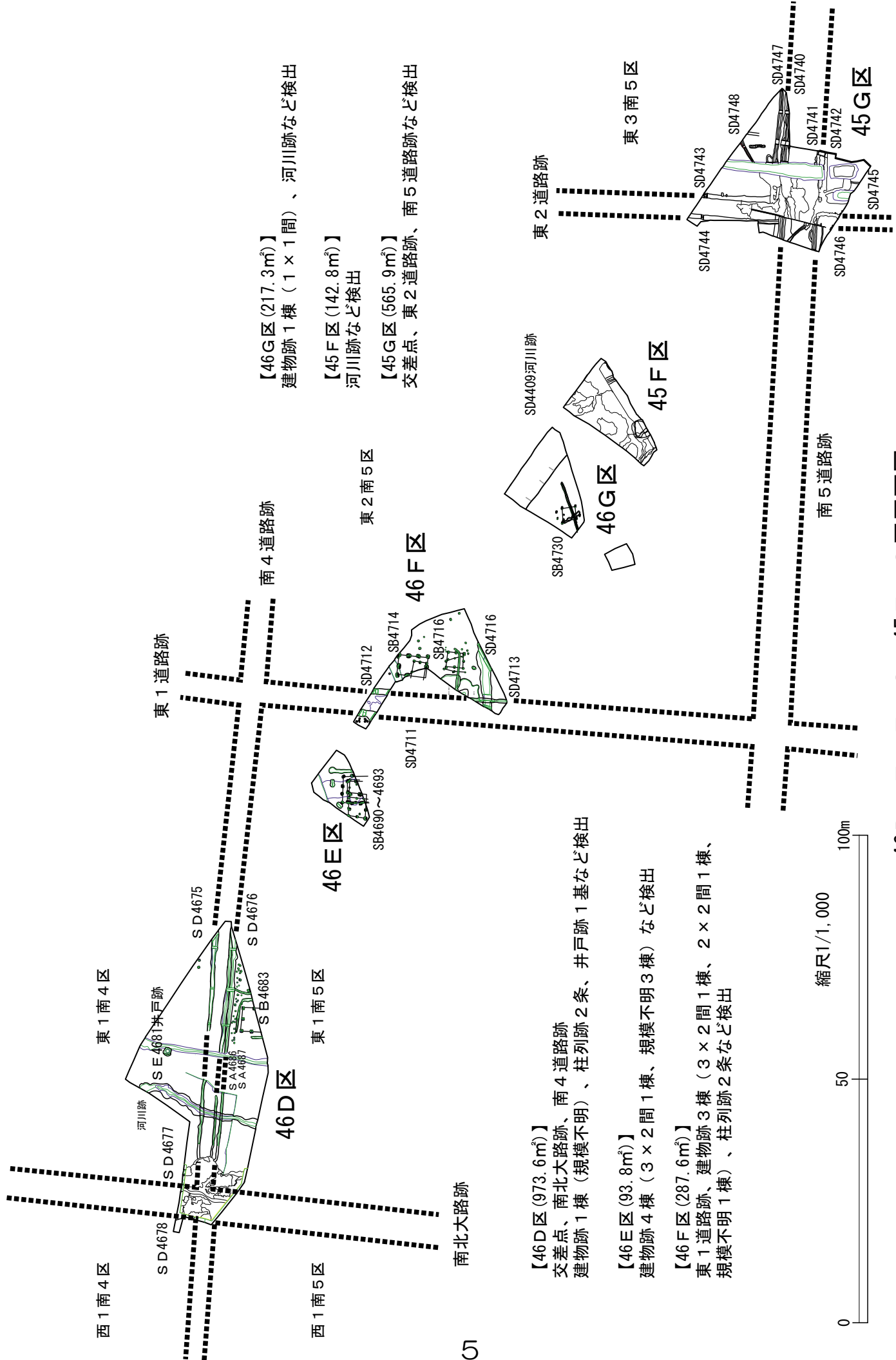
東3道路跡、南7道路跡、建物跡6棟
(3×2間2棟、1×1間4棟)、柱列跡2条
河川跡

【45E区 (366.8㎡)】

区画溝1条、建物跡2棟 (2×2間)、
竪穴住居跡1軒、



45A～E区平面図 縮尺1/1,000



西1南4区

東1南4区

西1南5区

東1南5区

東2南5区

東3南5区

東1道路跡

南4道路跡

東2道路跡

南5道路跡

南北大路跡

SD4409 河川跡

河川跡

【46G区 (217.3㎡)】
建物跡1棟 (1×1間)、河川跡など検出

【45F区 (142.8㎡)】
河川跡など検出

【45G区 (565.9㎡)】
交差点、東2道路跡、南5道路跡など検出

【46D区 (973.6㎡)】
交差点、南北大路跡、南4道路跡
建物跡1棟 (規模不明)、柱列跡2条、井戸跡1基など検出

【46E区 (93.8㎡)】
建物跡4棟 (3×2間1棟、規模不明3棟) など検出

【46F区 (287.6㎡)】
東1道路跡、建物跡3棟 (3×2間1棟、2×2間1棟、
規模不明1棟)、柱列跡2条など検出

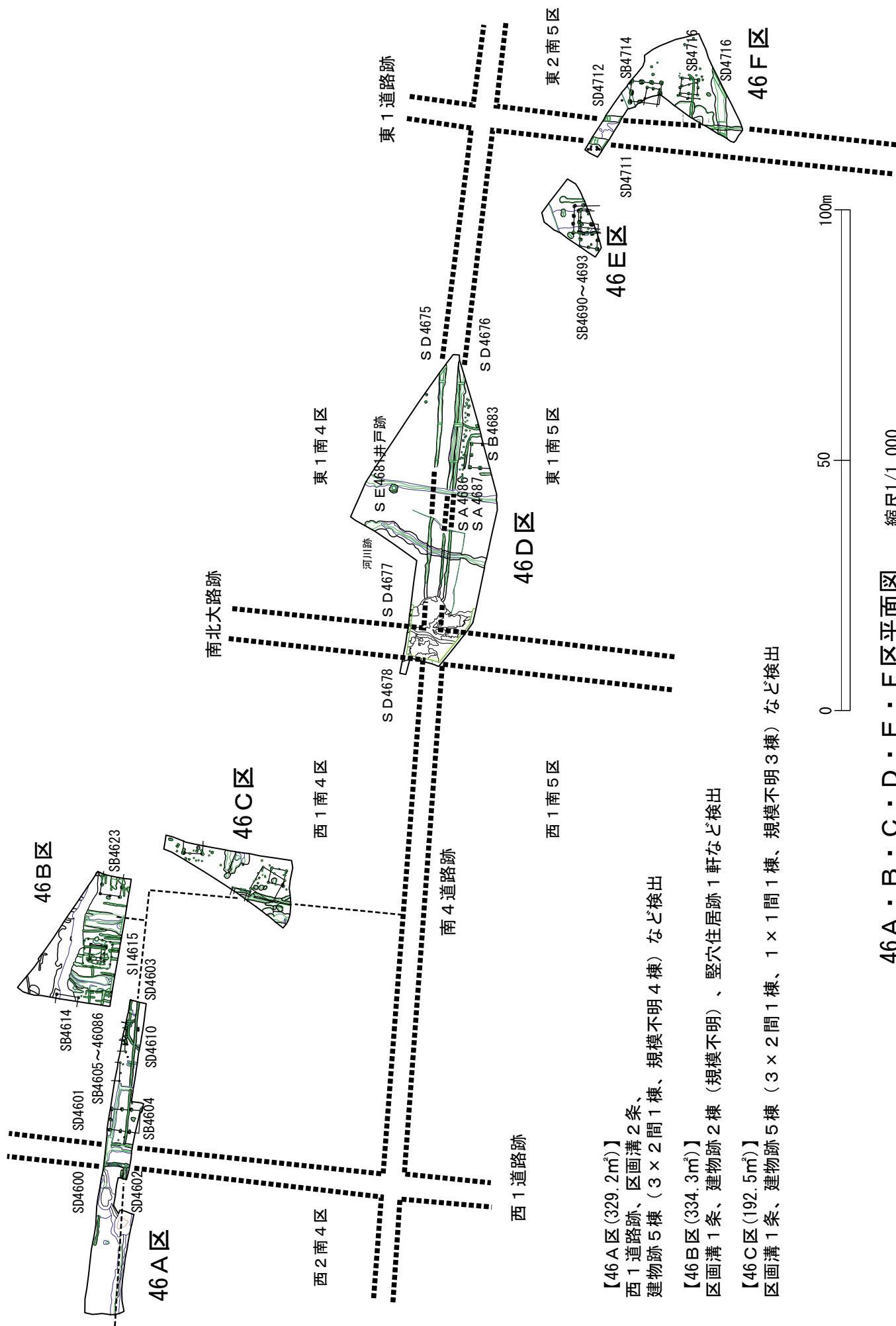
縮尺1/1,000

100m

50

0

46D・E・F・G、45F・G区平面図



○

【46A区(329.2㎡)】

西1道路跡、区画溝2条、
建物跡5棟(3×2間1棟、規模不明4棟)など検出

【46B区(334.3㎡)】

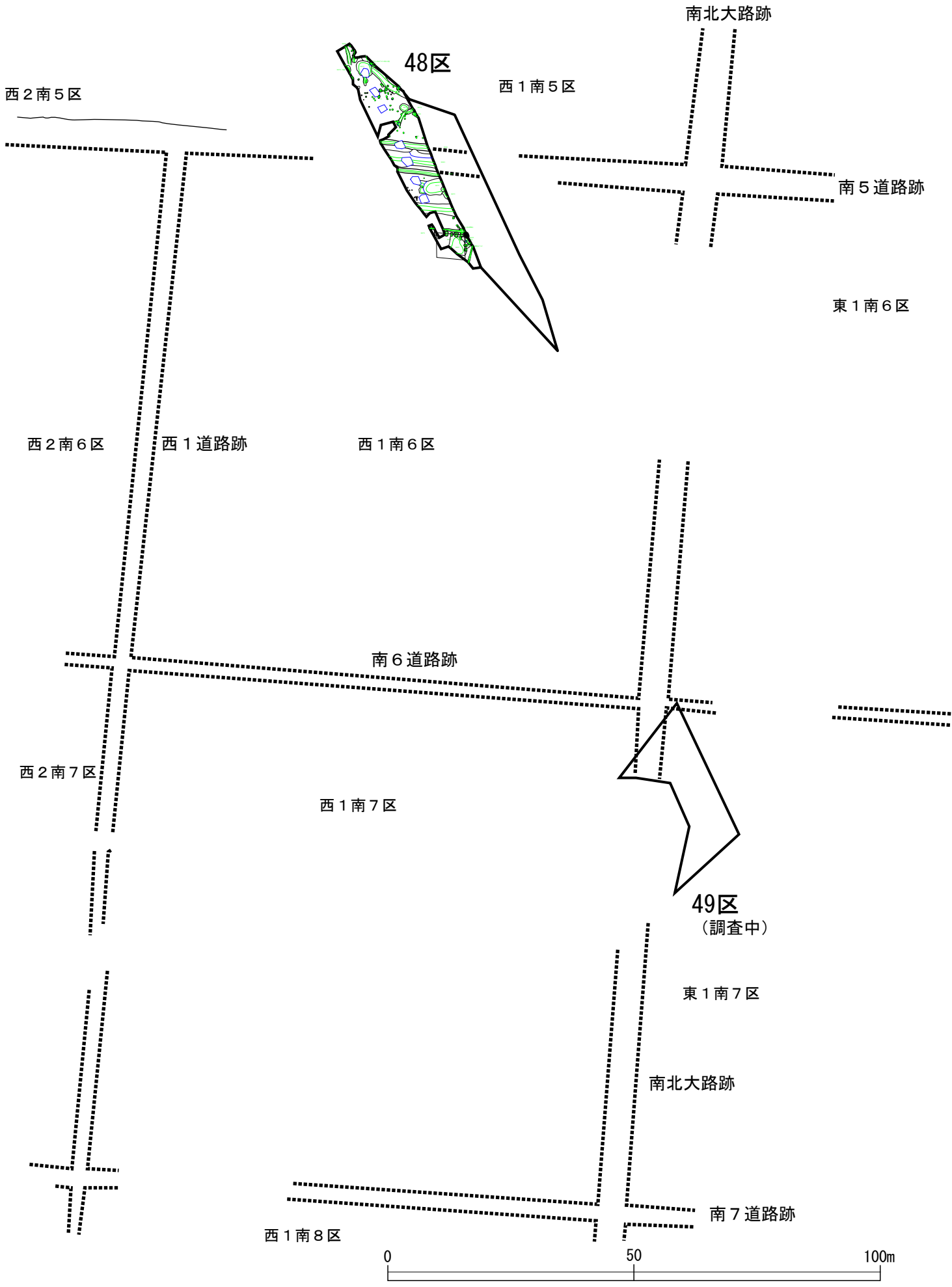
区画溝1条、建物跡2棟(規模不明)、
竪穴・住居跡1軒など検出

【46C区(192.5㎡)】

区画溝1条、建物跡5棟(3×2間1棟、
1×1間1棟、規模不明3棟)など検出



46A・B・C・D・E・F区平面図 縮尺1/1,000



48・49区と隣接区の平面図

縮尺1/1,000



45D区 東3道路跡(南から)



45B区 東3道路跡、材木堀跡、建物跡(南から)



45A区 南6道路跡と区画溝(南から)



47区北半部 南6道路跡(東から)



46D区 南4道路跡(手前)と南北大路との交差点(東から)



46A区 西1道路跡と地割内の区画溝(南から)



45G区 東2道路跡(西から)

古代の道路跡、区画溝



45D区 SB4406建物跡(南から)



45D区 SB4403建物跡(東から)



45D区 SB4413建物跡(南から)



46D区 SB4683建物跡(南から)



45D区 SI4417竪穴住居跡(南東から)



46B区 外周溝の巡る奈良時代の竪穴住居跡(南から)

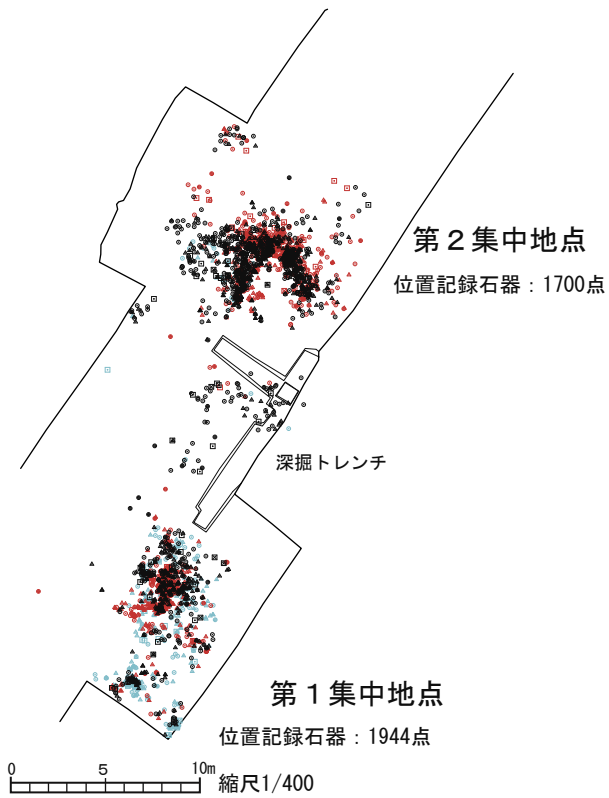


45A区 SE4442井戸跡(8世紀中頃)



46D区 平安時代の井戸跡(南から)

古代の建物跡、竪穴住居跡、井戸跡



4000点余りの石器の内訳

石鏃、ヘラ状石器、スクレイパー、ラウンド・スクレイパーなど二次加工の施された少数の石器の他、多量の剥片、チップがある。石材は黒曜石を主体とし、頁岩がそれに次ぐ。土器は出土していないが、石鏃やヘラ状石器が含まれることから、縄文時代の石器製作跡とみられる。



石鏃



石鏃



石鏃



異形石器(石鏃or石錐)



ヘラ状石器



ラウンドスクレイパー



石器第1・2集中地点の調査状況(北から)



石器第1集中地点の石器出土状況(南から)



石器第2集中地点の石器出土状況(西から)

45A区 石器第1・2集中地点と出土石器



47区南半部 古墳時代(南小泉式期)のSI4543竪穴住居跡(西から)



左写真のSI4543竪穴住居跡の遺物出土状況



47区北半部 古墳時代(南小泉式期)のSI4515竪穴住居跡(西から)



左写真の竪穴住居跡 カマドの遺物出土状況(西から)



上左写真の竪穴住居跡の遺物出土状況



上左写真の竪穴住居跡の遺物出土状況



同上



同上

古墳時代中期(南小泉式期)の竪穴住居跡

壇の越遺跡第一号木簡 もつかん

【出土地区・遺構】

49区のSK4806土壇どいぼの底面から出土。

【釈文】

□升一升大弟又(給カ)□三升子弟
□□ □□ □□ □□

【内容】

「大弟おおおむと(人名)に一升、「子弟こむと(人名)に三升を給付したことなどを記している。給付した品名は不明だが、米などが考えられる。官職名かんしよくを記さず、姓を省略していることから、雑役等ざつやくに使役された農民などかもしれない。陸奥国府多賀城跡むつひこと密接に関連する東山官衙遺跡かんがとその周辺で行われていた行政実務の一端を示すものとして重要な意義がある。

【形状】

本来の形状は不明で、上端、右側边上部から下端、左側辺を刀子とぎす(小刀)で切り取っている。

【年代】

きょうはん 共伴する土器が9世紀前半頃のものであることから、この頃に廃棄されたものとみられる。



(実大)